一誌一句（受贈誌７・８月号他より）

米田　透　抄出

海面に火の鋲を打つ烏賊釣火　（煌　星）　石井いさお

遥拝の富士に跪拝の誓子の忌　（宇　宙）　島村　正

たかが俳句されど俳句と酌む年酒　（八千草）　山元志津香

春愁の浮き沈みして流れゆく　（天　塚）　宮谷　昌代

難しき位置にムスカリ駅ピアノ　（歯　車）　前田　弘

五輪エンブレムの喪章の如し野分雲　（からまつ）　石川　春兎

風鈴のうつらうつらと鳴る真昼　（　鴻　）　増成　栗人

靴先で触れて毛虫を動かしぬ　（初　蝶）　中山　和子

今ここを奇貨とし生きん竹落葉　（海　原）　安西　篤

避暑地より大き切手の文来たる　（香　雨）　片山由美子